

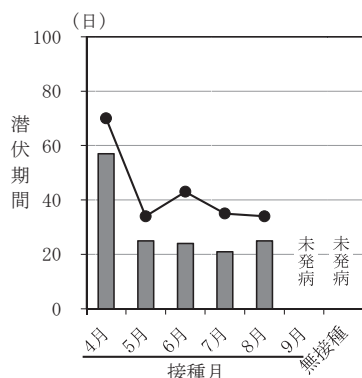


図1 感染時期と潜伏期間

※棒線は初発日までの日数、折線は50%の株が発病するまでの日数を示す。

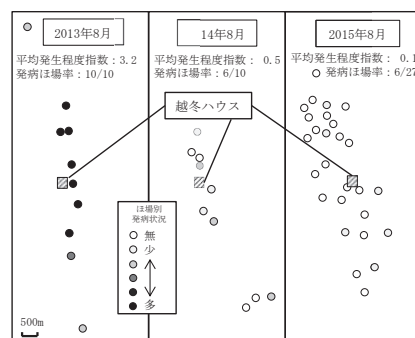


図2 越冬ハウス適正管理と近隣てん菜ほ場の西部萎黄病発生状況

※□は媒介虫発生を確認後、冬季に適正管理した越冬ハウスを示す。
※○は、色が濃いほど本病の発生が多かったほ場を示す(図2、4共通)。

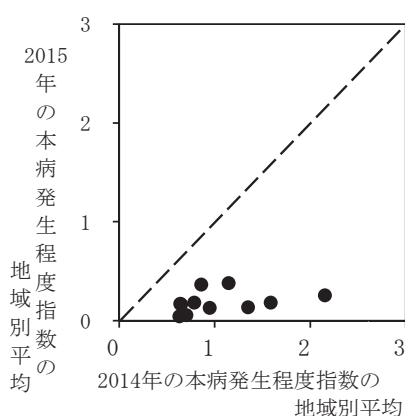


図3 越冬ハウスの適正管理前後年における西部萎黄病発生状況(調査対象: 11地域)

※2015年2月に各地域の越冬ハウスの適正管理が指導された(図3、4共通)。

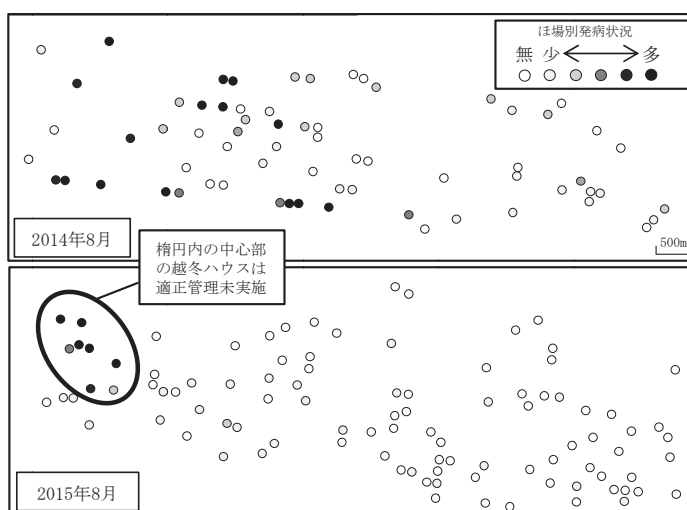


図4 Z町Y地域の本病発生程度指数調査結果

※両年とも全戸に殺虫剤の灌注処理と茎葉散布が指導されている。
※楕円内の中心付近にある越冬ハウスは冬期間の適正管理未実施。

表1 てん菜の西部萎黄病の防除方法及び注意事項

防除方法及び注意事項
耕種的防除 西部萎黄病を抑制するために最も効果の高い対策は、 1. 各地域の越冬ハウス(用途は限定しない)の被覆を冬期間に除去すること 2. 被覆を除去しない場合、積雪のある厳冬期に各地域の越冬ハウス(用途は限定しない)の中を、 ①雑草及び作物残渣は枯死させるか除去すること ②栽培する作物にアブラムシ類が寄生しないよう管理すること によって、ハウス等施設内を媒介虫となるモモアカアブラムシが越冬できない環境にすることである。 薬剤防除 西部萎黄病の媒介虫に対する薬剤防除は、 1. 育苗ポット灌注を基本とする。 2. 茎葉散布は、①越冬ハウスの適正管理をやむを得ず実施できなかった地区、②育苗ポット灌注を実施しなかった苗を植え付けたほ場、③西部萎黄病の多発年が継続した場合などに実施する補助的な防除手段である。

※本成績による結果を太字(ゴシック体)で示した。平成24年指導参考事項による結果を細字で示した。

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。

道総研十勝農業試験場 生産環境グループ

電話 (0155) 62-2431 E-mail: tokachi-agri@hro.or.jp